

# 佳作

## 組踊 佐弥波の根神（サヤフワヌ ニガミ）

西岡 敏

☆あらすじ

佐弥波村の根人・樽金と、根神・乙樽は、兄妹である。幼い時に、地元の有力者であった両親を佐敷大按司の父に殺されてしまい、二人も殺されるところを温情により助けられた。父の跡を継ぎ、大地の統一を目指す若き佐敷大按司は、亡き父親が兄妹の仇と知っていたが、ノ口となって長じた乙樽の美しさに心を奪われ、彼女のもとに通うようになる。

しかし、乙樽の兄・樽金にはとうてい許せないことであった。兄は

妹に、兄妹愛の証として、親の形見の短刀で、親仇の佐敷大按司を寝ている隙に暗殺せよと命ずる。

ある夜、通ってきた佐敷大按司の寝入りを見計らい、乙樽は短刀を振りかざすが、どうしても打ち下ろすことができない。乙樽から暗殺計画を知った佐敷大按司は、直ちに樽金追討の勅命を発し、総大将として、佐弥波村にも縁が深い知念大主チニンウフメシを任命する。

大軍に城を包囲ゲスイクされた樽金は、これまでと覚悟し、乙樽を投降させる。乙樽を確保した知念大主は、城への総攻撃を命ずる。城に踏み入り、樽金を探し出し、一騎打ちを挑むが、返り討ちにあう。息子松金マツイガニが、さらに樽金に一騎打ちを挑み、父親の仇を討ち果たす。

炎上する城。一旦は投降したものの、兄の死に直面するに及び、乙樽は、燃え盛る炎の中に飛び込み、兄と運命をともにする。

反逆者の討伐が終り、知念大主の葬儀が行われる。佐敷大按司は、乙樽の死を嘆き、逃がした松金の不備を問い詰めるが、参謀の僧・

慶運<sup>チーウン</sup>は、松金こそ父親の仇を見事に討った最大の功労者であると大按司を諫める。

佐敷大按司は、疲れを覚え、一人になりたいと人払いをする。そして、うたた寝に、ある夢を見る。そこに現れたのは、自らの勅命によって死に追いやられた兄妹であった・・・

☆登場人物一覧

乙樽<sup>ウトウダル</sup>（佐弥波村の根神<sup>ニガミ</sup>。樽金の妹。佐敷大按司の通い妻。）

樽金<sup>タルガニ</sup>（佐弥波村の根人<sup>ニーンチュ</sup>。乙樽の兄。）

知念大主<sup>チニンウフヌシ</sup>（知念城の城主。老境に差し掛かる。）

松金<sup>マツイガニ</sup>（知念大主の嫡子。樽金とは旧知の間柄。）

赤子（松金の初子。「舞台では人形」。）

佐敷大按司<sup>サシチウフアジ</sup>（身の丈小柄だが、智謀に優れた若き按司。沖繩の大地<sup>ウフジ</sup>の統一を目指す。）

慶運<sup>チウウン</sup>（佐敷大按司の側近で、参謀の僧。）

きやうちやこ持ち。供の者1（佐敷大按司の臣下。） 供の者2（佐敷大按司の臣下。） 供の者3（知念大主の臣下。） 供の者4（知念大主の臣下。） 供のノロ1。 供のノロ2。

童子1（子役。） 童子2（子役。）

童子3（子役。最も幼少でクサブツクワー。）

童子の樽金（子役。）

童子の乙樽（子役。）

【第1部】（佐弥波<sup>サヤフワ</sup>の森近く）

〔琉歌（地謡）・稲まづん節〕

種取ぬ祭り<sup>タントウイ マツイ</sup>

島甘世願<sup>シマアマユニガ</sup>てい

カミ  
神ぬ 御元から（ヨ一）  
ミム トウ

ナマ  
今どう 戻る（ヨーンナー）  
ムドゥ

（乙樽出羽。供のノロ2人とともに上手より現れる。）

乙樽詞

ナマ ウン  
今出じる 我身や 佐弥波村 根神、  
ワミ サヤ フラム ラニガミ

ヌル  
祝女 ゆがらみちゆる 乙樽どう ややびいる。  
ウ トウ ダル

タントウ イ  
種取ぬ 祭り 昔から きさしから  
マ ツ イ ム カ シ

イヤ  
言りるぐどう 済まち、  
ス イ

キク サ  
木草 ふちやてい 居る 森ぬ 御嶽から  
フ ウ ム イ ウ タ キ

ヌル ムル  
祝女 祝女どう 共に 今どう 戻やびる。  
ト ウ ム ナ マ ム ド ウ

ヤン  
来年ぬ 毛作いぬ ゆかるさま 願てい  
ム チ ユ ク ニ ガ

ウス デイ  
御袖 うしやぎやい 御籤 引ち見りば  
ミ ク ジ フ イ ミ

ト  
ああ 尊どう！ うぬぐどうになゆる

カミ  
神ぬ<sup>ヅカフウ</sup>御果報ぬ<sup>アフラフ</sup>しるし表りてい、  
ユガフドゥシ  
世果報年なやい<sup>チユ</sup> 美らさゆかるてい。  
ト  
うう尊とう！ ああ御神<sup>ンチャン</sup>がなし！  
ムラビトウ  
村人ぬ<sup>ニ</sup>願げや<sup>カナ</sup>叶わらち<sup>タ</sup>給ぼち  
ユ  
世や直<sup>ナウ</sup>てい<sup>イ</sup>行ちゆる<sup>クトウ</sup>事ぬ<sup>ウリ</sup>嬉しや。  
ニ  
やあ、根人<sup>ニンチュ</sup>ゆ！ やあ、うみきいゆ！

（樽金出羽。音曲なし。）

### 樽金詞

くりや<sup>サヤフワムラ</sup>佐弥波村<sup>ニンチュ</sup>根人、<sup>サヤフワタルガニ</sup>佐弥波樽金。  
うとうをうない<sup>ウトウダル</sup>乙樽や<sup>サヤフワムラ</sup>佐弥波村<sup>ニガミ</sup>根神、  
タ  
種取ぬ<sup>マツイ</sup>祭り<sup>ニトウ</sup>根取いしち<sup>スイ</sup> 濟まち。  
チ  
聞きば<sup>チュ</sup>来る年<sup>トウシ</sup>ん<sup>ユガフドゥシ</sup> 世果報年<sup>ア</sup>当たてい

チリ 塵ふいじん 無らん 何ぬさびん 無らん  
チユク ムチユク 作い毛作いん 美らさゆかるてい。

ああ、嬉しくとう！

さり、大主ぬ前ゆ！ 松金ゆ！

〔地謡〕・大主手事

（知念大主、知念松金出羽。知念松金は、赤子を抱いている。）

知念大主詞

デイ 出ようちやる者や 知念城守る

チニウフヌシトウ 知念大主と うぬ嫡子 知念松金。

チユー タントウイ 今日や種取ぬ 折目日どやすが、

ああ、また、嬉しくとう、

ワ 我すい達思なし子 知念松金が

なし子<sup>グワ</sup> 授か<sup>サジヤ</sup>やい 我<sup>ワ</sup>んや<sup>ハツイウンマガ</sup> 初孫<sup>ハツイウンマガ</sup>

親<sup>ウヤ</sup>ぬ<sup>ウヤ</sup>親<sup>ウヤ</sup>なたる 事<sup>クトウ</sup>ぬ<sup>クトウ</sup>また<sup>クトウ</sup>有<sup>ア</sup>りば

佐<sup>サヤ</sup>弥<sup>フワ</sup>波<sup>シ</sup> 靈<sup>シ</sup>力<sup>ジ</sup>高<sup>ダ</sup>さ

根<sup>ニガ</sup>神<sup>ミガ</sup>加<sup>ガ</sup>那<sup>ナ</sup>志<sup>シ</sup>から 親<sup>ウヤ</sup>祝<sup>ヌル</sup>女<sup>メ</sup>ぬ<sup>メ</sup>前<sup>メ</sup>から

産<sup>ウフ</sup>水<sup>ミスイ</sup>ゆ<sup>ミスイ</sup> 受<sup>ウ</sup>き<sup>ウ</sup>ら 孵<sup>スイ</sup>で<sup>ミスイ</sup>水<sup>ミスイ</sup>ゆ<sup>ミスイ</sup>か<sup>ミ</sup>み<sup>ミ</sup>ら。

や<sup>サヤ</sup>あ、<sup>フワ</sup> 佐<sup>サヤ</sup>弥<sup>フワ</sup>波<sup>フワ</sup>ぬ<sup>フワ</sup> 根<sup>ニガ</sup>神<sup>ミガ</sup>加<sup>ガ</sup>那<sup>ナ</sup>志<sup>シ</sup>！

祭<sup>マツイ</sup>り<sup>グトウ</sup>事<sup>アトウ</sup> 後<sup>ウユル</sup>に 御<sup>ウ</sup>許<sup>ユル</sup>し<sup>ユル</sup>ぬ<sup>ユル</sup>あ<sup>ユル</sup>ら<sup>ユル</sup>ば

御<sup>ウニ</sup>願<sup>ゲ</sup>事<sup>トウ</sup> あ<sup>ウ</sup>む<sup>ウ</sup>ぬ 靈<sup>スイ</sup>力<sup>ジ</sup>付<sup>ツ</sup>き<sup>イ</sup>て<sup>イ</sup>い<sup>イ</sup> 給<sup>タ</sup>ぼ<sup>タ</sup>り

我<sup>ワ</sup>が<sup>ウ</sup>孫<sup>ン</sup>為<sup>ガ</sup>に な<sup>グワ</sup>し<sup>クワ</sup>子<sup>クワ</sup>子<sup>クワ</sup>ぬ<sup>タ</sup>為<sup>タ</sup>に

産<sup>ウフ</sup>水<sup>ミスイ</sup>ゆ<sup>ミスイ</sup> 給<sup>タ</sup>ぼ<sup>タ</sup>り 孵<sup>スイ</sup>で<sup>テイ</sup>水<sup>イ</sup>ゆ<sup>ミスイ</sup> 給<sup>タ</sup>ぼ<sup>タ</sup>り！

乙樽詞

う<sup>ハ</sup>え<sup>ラ</sup>か<sup>ウ</sup>ん<sup>ジ</sup> 腹<sup>ハラ</sup>氏<sup>ウジ</sup>ん

あ<sup>ワ</sup>らん<sup>ミ</sup> 我<sup>ワ</sup>身<sup>ミ</sup>や<sup>ミ</sup>や<sup>ミ</sup>び<sup>ミ</sup>い<sup>ミ</sup>す<sup>ミ</sup>い<sup>ミ</sup>が。



松金詞

さり、祝女<sup>ヌル</sup>がなし 根神<sup>ニガミ</sup>がなし！

御水<sup>ウビナ</sup>撫<sup>ナ</sup>でいゆ 給<sup>タ</sup>ぼり 御願<sup>ウニ</sup>げしやびら。

（乙樽、脇の供のノロに水を持ってこさせる。右手に少し水をつけ、「ハー ウートートウ、ヒヤクハタチマデイン カラタガフー ウタビミソーリ（百二十歳までも健康体でありますようにお守りください）」と唱えて赤子の額を撫でる。）

知念大主詞

ああ、まくとうに 孵<sup>スイ</sup>でい果報<sup>ガフー</sup>な事<sup>クトウ</sup>。

くぬ老<sup>ウ</sup>いぬ身<sup>ミ</sup>までい 百命<sup>ムムチ</sup>伸びゆさ。

〔琉歌（地謡）・辺野喜節〕

ウシマカ

孫 生まりやい（ヒヤルガ）

ウヤ 親ぬ 親なやい

ウリ 嬉しさや 孵でいる（ヒヤルガ）

イヌチ

命さらみ（ヨーンナー）

（知念大主、喜びの舞。）

知念大主詞

ああ、さりさり、祝女加那志、

なま世間鳴響む 佐敷大按司とう

シナサキ 志情ぬ有ゆる 仲や聞ち居すいが、

タマクガニヲウガ 玉黄金拝む事やまた有やびいみ？

松金詞

やあ、<sup>チチウヤ</sup>父親ゆ！ うりや<sup>ウヤヌル</sup>親祝女に  
<sup>フリ</sup>無礼やあやびらに。

知念大主詞

ああ、くりや<sup>フリ</sup>無礼やあびいたん。  
<sup>トウシユ</sup>年寄い<sup>ザ</sup>戯り事や<sup>グトウ</sup>許ち<sup>ユル</sup>給<sup>タ</sup>ぼり。

〔地謡〕・大主手事

（知念大主、知念松金退場。併せて、供のノ口達も退場。舞台には樽金と乙樽のみ残る。）

樽金詞

やあ、うみないゆ、やあ、うみないゆ。

乙樽詞

何がややびいら、うみきいゆ。

樽金詞

神ん 畏りらん 大地 穢らしゆる  
我すい 達親仇 あぬ 佐敷按司が  
佐弥波 祝女ぬ屋に 夜毎 通ゆすいや  
我ぬん また知ゆる。

すいざをいきぬ 我身や 恥かしやぬ余い  
人ぬ 面持ちちやい 歩く事ならん。  
汝や ありが事 まくとう 愛さしゆみ？

乙樽詞

やあ、うみきいゆ、

佐敷大按司や 親仇がややびいら。

あまぬ父親に 我すい達父母や

戦世ぬ果ていに 殺さりゆみしよち

あまぬ父親や 親仇なやい、

残るくぬ二人や 御情ぬ有とてい、

生まりたる城、佐弥波村はずいし

乳母が元に 育てい置かりやい、

年月や積むてい うぬ間に、

あまぬ父按司や あまぬあていなしに

くぬ世失なとる 事んまたあむぬ。

うぬなし子あまに 罪科や無やびらん。

樽金詞

親仇なし子 按司ぬ威勢頼でい

うみないが心ククル たぶらかち居フウすいや

穢チカり極チまどてい 許ユルち許ユルさらん。

青オぜ二才ニセぬ 按アジ司グワ小ブン 分ブンやちよん知シらん、

他所ユスジマ島シマゆ巡ミクてい 美チュらさすいや探トウめてい

父チチウヤ親ウヤぬ 譲ユズイり 色イルユク欲チユぬ強チユさ。

男ヨイキガていら者ムヌや 愛カナさてい言イちん

肌ハダガナ愛ウエダさ間クチぬ 口ウツビぬ上ウツビ辺ウツビでむぬ。

飽アち果ハていてい 後アトウに 末スイや捨スイていらりてい

按アジ司グワぬ 戯フり遊アスイび 女ヨイナ子グワぬ 不フ足スク

世シキン間ワ笑ワれえむぬ ならばちやしゆが？

乙樽詞

按アジ司グワがなし心ククル 疑ウタゲえや無ネらん、

肝チムガナ愛ガナさからぬ まくとうでむぬ。

樽金詞

やりば、

くぬ我んとう 按司ぬ 誰るや 愛さが？

乙樽詞

二人共に 愛さ。

樽金詞

あらん、共にやあらん、誰るや 愛さが？

乙樽詞

我んや・・・うみきいや 愛さ。

樽金詞

ああ、ゆう言ちゃん！

やりば、うぬ芯や我んに見してい呉りゆ。

親ぬ肌添たるくぬ守い刀。

今日ど取らしゆむぬ 今日ど渡しゆむぬ。

あぬ按司ぬ夜伽寝なしちゆるうちに、

腹氏ぬ恨み 両親ぬ恨み

一刀ぬ下に 晴らち取らし！

（樽金、短刀を取り出し、乙樽に渡す。）

乙樽詞

うりや なゆみ。



樽金詞

我<sup>ワ</sup>んどう愛<sup>カナ</sup>さてい 言<sup>イ</sup>ちやのあらに！  
我<sup>ワ</sup>すい達<sup>タ</sup> 両親<sup>フタウヤ</sup>ぬ 哀<sup>アワ</sup>り知<sup>シ</sup>らなしゆてい  
今<sup>ナマ</sup>ぬ今<sup>ナマ</sup>までいん 生<sup>イ</sup>ちち居<sup>ヨウ</sup>たみ？

乙樽詞

我<sup>ワ</sup>ぬん父<sup>チ</sup>母<sup>チ</sup>ぬ 愛<sup>カナ</sup>さ取<sup>トウ</sup>い受<sup>ウ</sup>きてい  
くぬ世<sup>ユ</sup>生<sup>イ</sup>ちちちやる 事<sup>ク</sup>やまた知<sup>シ</sup>ゆる。  
二<sup>タ</sup>所<sup>トウ</sup>ぬ 親<sup>ウヤ</sup>ぬ 哀<sup>アワ</sup>り知<sup>シ</sup>らなしゆてい  
くぬ世<sup>ユ</sup>をうてい 生<sup>イ</sup>ちる 事<sup>ク</sup>ぬまたあゆみ。

樽金詞

やりば、うぬ哀<sup>アワ</sup>り 今<sup>ナマ</sup>どう晴<sup>ハ</sup>らしゆる。  
すいざをいきぬ 事<sup>ク</sup> まくどう 思<sup>ソム</sup>らば、

寝<sup>ニ</sup>ていん 忘<sup>ワスイ</sup>りらん 親<sup>ウヤ</sup>ぬ 敵<sup>テイチカタチ</sup>仇  
カタナバ カタナバ 下<sup>シタ</sup>に 打<sup>ウ</sup>たな 置<sup>ウ</sup>ちゆみ！

〔琉歌（地謡）・比屋定節〕

寝<sup>ニ</sup>ていん 忘<sup>ワスイ</sup>りらん 親<sup>ウヤ</sup>ぬ 敵<sup>テイチカタチ</sup>仇  
カタナバ カタナバ 下<sup>シタ</sup>に 打<sup>ウ</sup>たな 置<sup>ウ</sup>ちゆみ

（樽金・乙樽、寄り添って下手に退場。）

【第1部終わり】

【第2部】（佐弥波ノロの家近く）

〔民謡（地謡）・クラハ山田〕

（童子達、歌い踊りながら次々登場。）

童子1歌

佐弥波村ぬ 親神女や  
サヤフワムラ ウヤヌル  
サシチ ウトウダカ ウフアジ  
佐敷 音高さ 大按司に 通らつてい。  
カユ

童子2歌

大地鳴響ます 按司やりば  
ウフジ トウユ  
ヌル  
神女や んばなゆみ  
アジ  
とうたり 按司がなし めんせびり。

童子1歌

やすいが 按司前と 親祝女や  
ウヤ テイチカタチ ウヤヌル  
ウヤ 親や 敵仇  
たつくわいむつくわい なゆしゆがやあ。

童子3歌

ヲウトウクラウンチ

男女に

ウシ 生まりとてい

クイ 恋ゆ 知らんすいや

タマサカスイチ スクミ 玉ぬ盃 底見らん

童子1詞（童子3に向かつて）

スーサン ワラビ いや、推参な童！

童子2歌

アジ やすいが 按司ていら 者やりば

シヌ 忍び欲しや あていん

フィチユイ 一人しや 通らりみ

童子1歌

何時イツイんトウム 供チャぬフイ達ツイ 引ツイちツイ連ツイりツイてツイい  
生イちミ身ミ 大デー事ジ 無ネんネぐネとネうネに  
格カ護ケやケ さサつツたタるタ 按ア司ジがジなナし

童子3歌

我ワんンにニんン 御ウ供トがトらラみミちチゃヤい  
按ア司ジ前メぬヌ 御ウ世ユ継ツじジゆユ  
みミせセえエるル 御ウ姿シ 拜ヨみウ欲ガしシゃヤ

童子2詞（童子3に向かつて）

いや、推スイ参サンなナ童ワラビ！

童子1歌

按司<sup>アジ</sup>ぬ 中<sup>ナカ</sup>ぬ 按司<sup>アジ</sup>やりば

あまた 美<sup>チユ</sup>ら女<sup>ヲイナケ</sup>

うち惚<sup>フ</sup>りてい しいちよんちよん

童子2歌

いかな今<sup>ナマ</sup>ぬ をうなじやらに

まん惚<sup>フ</sup>り やみせていん

他<sup>フカ</sup>に御<sup>ウシラ</sup>調<sup>ビ</sup>び しみせらやあ

童子3歌

たとうい 按<sup>ア</sup>司<sup>ジ</sup>前<sup>メ</sup>ぬ 飽<sup>ア</sup>ち果<sup>ハ</sup>ていてい

七<sup>ナナ</sup>人<sup>シ</sup> 御<sup>ウライ</sup>妃<sup>イ</sup> 作<sup>チュク</sup>たんてい

我<sup>ワ</sup>が代<sup>カ</sup>わいに 愛<sup>カナ</sup>さしゆさ

童子1・童子2詞（童子3に向かつて）

いや、<sup>スイーサン</sup>推参な<sup>ワラビ</sup>童みが！

童子1歌

ありあり！

ありに見ゆるは<sup>ミ</sup> 按司<sup>アジ</sup>がなし

<sup>トウム</sup>供ぬ達<sup>チャ</sup> 引<sup>ツイ</sup>ち連りてい

此<sup>ク</sup>まんかい うちえんせん。※

ありよう あり 御<sup>ウ</sup>やぐみさ。 (曲※反復)

我<sup>ワタ</sup>達<sup>タイ</sup>や でい<sup>イ</sup>ちや 家<sup>ヤ</sup>かい。 (曲※反復)

明<sup>アコ</sup>う暗<sup>クロ</sup>う なて<sup>イ</sup>ちゆう<sup>ウ</sup>さ。 (曲※反復)

親<sup>ウヤ</sup>ぬ<sup>チャ</sup>達<sup>ン</sup>ん 待<sup>マ</sup>つち<sup>ラ</sup>よらはじ。 (曲※反復)

〔地謡〕・按司手事〕

（佐敷大按司出羽。僧・慶運、供の者2人を伴って現れる。）

佐敷大按司詞

出ようちやる者や 佐敷大按司。

我が先祖 元や 伊平屋島ぬ生まり、

大地かい渡てい 幾年が経たら。

ああ、くぬ大地に 味方なる人とう

仇なる人とう 敵味方分かり、

すいじり事たくでい たくまらりてい、

我が父ぬ才や 人勝いがしちやら、

佐敷按司なやい、うぬ嫡子我身ん

過じし父親ぬ 遺言受き継じやい

太陽が末按司ぬ 照り上がるぐとうに

くぬ世治みらな 世界に鳴響まさな。



よう、慶運チーウン！

慶運詞

ふう。

佐敷大按司詞

今日チユーや我が妻トウジに 今日チユーや我が無蔵ンゾに  
訪ウトウじりゆしゆむぬ 言語イカタれゆしゆむぬ、  
我ワンに供トウムしゆすいや くままでいどうやゆる。  
先サチに戻ムドウり。

慶運詞

御油グユダン断ダンゆみしよな、按司アジがなしい前メ。  
御ウやぐみさあすいが 物ムメシ知らりしやびら。

女メ身ミぬ果ハていや 何ナニがなゆら知シらん、  
強チユウさすいや二人フタヒト くまに残ヌクらちよてい、  
番バンぬ役ヤク、しみやびら。

佐敷大按司詞

ああ、不自由フジユウな事コト。

慶運詞（供の者1・2に向かつて）

按アジ司シがなし御側ウスバ 油断ユダンさんぐとうに  
寝ニずいぬ番バンすいりゆ！

供の者1・2詞

拜ウガんちゅみやびてい

（まず、慶運退場。しばらくして、供の者1・2も退場。）

佐敷大按司（独語）

ああ、我ワんとう 思ウ無ミ蔵ゾや

くぬ世界シケぬ中ナカに 産ナさつたる 因果キングワ。

ありが父母チチフワフワや 我ワが父チチに背スムち

我ワが父チチに討ウたり、残ヌクる二人タイぬ子クワん

殺クルさりらんでい しゃつとうくる、

我ワが親ウヤが 情ナサキゆい

乳母チアインムトウが元ムトウに置ウかりやい 年トウシツイチ月ツイや積ツイむてい、

うぬ女子ライナグザワや

親祝ウヤヌル女メになりば 年トウシゲル頃ケになりば

なりふじぬ 清チユらさ 心ククルトウ取トルらりやい

互タゲに敵テイチカタチ仇ウラ 恨ウラむ身ミどやすいが

眼マな子ク合アわしゆりば 目ミぬ奥ウゆ見ミりば  
肝チ惹フイかな置ウちちゆみ、肌ハ添ダわななゆみ。

ああ、思ウ無ミ蔵ンゆ！

親ウ仇ヤ産カし子チ くぬ我ワ身ミどうやすいが、  
許ユすんでい言イりば 愛カさんでい言イりば、  
くぬ我ワ身ミや他フかに 望スむ事ク無トらん。

〔琉歌（地謡）・干瀬節〕

月ツぬ夜ユん夜ユい（ヨ一）

闇ヤぬ夜ユん夜ユい

無ン蔵ヅどう二人タぬ夜ユどう（ヨ一）

にや夜ユさらみ

（乙樽も舞台に出る。）

佐敷大按司詞

夜ぬ暮<sup>ク</sup>りてい我<sup>ワ</sup>んや あいち居<sup>ユ</sup>らりらん  
やあや 思無<sup>ウミンゾ</sup>蔵ゆ 今<sup>ナマ</sup>どう来<sup>チ</sup>ちやる。

乙樽詞

何時<sup>イツイ</sup>がめらていやり 我<sup>ワチム</sup>肝あまがしゅてい  
えたり 按<sup>アジ</sup>司加那志 今<sup>ナマ</sup>どういめみ。

〔琉歌（前半）（地謡）・諸鈍節〕

里<sup>サトウ</sup>がめる今<sup>クユイ</sup>宵  
計<sup>フワカ</sup>れ事<sup>グトウカク</sup>隠ち（ウミサトウヨ）

佐敷大按司詞

やあ、思無<sup>ウミンゾ</sup>蔵ゆ！

志<sup>シ</sup>情<sup>ナ</sup>きぬま<sup>サ</sup>まに　しばし<sup>ヤ</sup>休<sup>スイ</sup>ま。

〔琉歌（後半）（地謡）・諸鈍節〕

戻<sup>ムド</sup>さらんとうみ<sup>ミ</sup>ば

百<sup>ムム</sup>ぬ<sup>ク</sup>苦<sup>リ</sup>りしや（アリ　ウミサトウヨ）

（乙樽、寝入っている佐敷大按司に、三度、短刀をかざす。が、ついに果たせず、泣き崩れて短刀を放り出す。佐敷大按司、乙樽の涙にふれたためか、驚いて目を覚ます。）

佐敷大按司詞

我<sup>ワ</sup>ん<sup>ナ</sup>や今<sup>マ</sup>　夢<sup>イ</sup>どう見<sup>シ</sup>ち<sup>ン</sup>やす<sup>イ</sup>が！

大<sup>ウ</sup>雨<sup>ラ</sup>ぬ　佐<sup>サ</sup>弥<sup>ヤ</sup>波<sup>フ</sup>から来<sup>チ</sup>ち、

あ<sup>ア</sup>た降<sup>フ</sup>いぬ　我<sup>ワ</sup>身<sup>ミ</sup>が顔<sup>カ</sup>ウ<sup>ウ</sup>打<sup>ウ</sup>ち、

錦ぬ蛇ニシチ ジャー 首クビに巻マち付ツイち、  
やあ、くりや、如何イチャるしるし？

乙樽詞

あきゆウミサトウメ 思里前ウミサトウメ くぬチワ 際チワになりば  
計フワカれ事ケトウあていん 隠カクち隠カクさらん。  
事クトウぬ成ナり行ユちゆ うんカクにゆかてい 給タぼり。  
我ワすい達タチチラフワフワ父母フワや 里サトウが父チチゆいに  
玉タマぬ緒フウゆ 散チらち 成ナし子ダウ二人タイヌチ命ヌチや  
御ウナサ情サきぬあとてい 御ウユル許ユルしぬあとてい  
今ナマぬ今ナマまでいん 生イちち居フウやびすいが  
我ワ身ミがすいミざをいミきや  
里サトウが父チチウラ恨ウラでい 親ウヤカタチ仇カタチとうむてい  
朝アサユ夕ユさん 寝ニていん忘ワスイりらん

里<sup>サトウ</sup>とう 我<sup>ワ</sup>ん互<sup>タデ</sup>に 情<sup>ナサ</sup>き通<sup>カユ</sup>わしば

うぬ恨<sup>ウラ</sup>み妬<sup>ニタ</sup>さ 百<sup>ムマサ</sup>勝<sup>マサ</sup>い勝<sup>マサ</sup>てい

里<sup>サトウ</sup>とうをいき誰<sup>タ</sup>るや 肝<sup>チムガナ</sup>愛<sup>ガナ</sup>さていやり

我<sup>ワ</sup>んに問<sup>トウ</sup>い責<sup>シ</sup>みてい、我<sup>ワ</sup>んや、

共<sup>トウム</sup>に愛<sup>カナ</sup>さてい言<sup>イ</sup>ちん責<sup>シ</sup>み立<sup>タ</sup>ててい

誰<sup>タ</sup>るや愛<sup>カナ</sup>さてい 引<sup>フイ</sup>かんどうんありば

我<sup>ワ</sup>んや、をいきどう愛<sup>カナ</sup>さてい言<sup>イヤ</sup>びたすいが、

をいきどう愛<sup>カナ</sup>さらばをいきぬ言<sup>イユ</sup>るままに

親<sup>ウヤ</sup>ぬ肌<sup>ハダ</sup>添<sup>ス</sup>たる 守<sup>マム</sup>い刀<sup>ガタナ</sup>しやい

大<sup>ウフアジ</sup>按<sup>ユトウジ</sup>司<sup>ニ</sup>ぬ夜<sup>ニ</sup>伽<sup>ガ</sup> 寝<sup>ニ</sup>なしちゆるうちに

一<sup>チュカタナ</sup>刀<sup>ムトウ</sup>ぬ元<sup>ムトウ</sup>に

あたら命<sup>ヌチ</sup>ゆ取<sup>トウ</sup>りんでいぬ 言<sup>イーツイ</sup>付き。

我<sup>ワ</sup>んや、今<sup>クユイ</sup>宵<sup>イ</sup>、うぬ刀<sup>カタナム</sup>持<sup>ム</sup>ち、

御<sup>ウケビ</sup>首<sup>ニンガ</sup>念<sup>ガ</sup>掛<sup>ガ</sup>きやびたすいが、



肝<sup>チム</sup>ん 肝<sup>チム</sup>ならん 繰<sup>ク</sup>い返<sup>ケイ</sup>し返<sup>ゲイ</sup>し

三<sup>ミ</sup>けえん 振<sup>フ</sup>りどうむ 狂<sup>ワ</sup>りらわんならん

打<sup>ウ</sup>ち刺<sup>サ</sup>しゆる事<sup>コト</sup>や 哀<sup>アサ</sup>りなくなくに

刀<sup>カタナ</sup>振<sup>フ</sup>い捨<sup>スイ</sup>ていてい 今<sup>ナマ</sup>ぬ際<sup>チマ</sup>なやびたん。

うぬ、御<sup>ウ</sup>目<sup>ミ</sup>かきたる夢<sup>イミ</sup>

解<sup>フトウ</sup>ちどうんすいりば、

蛇<sup>ジャ</sup>やすいぐ刀<sup>カタナ</sup> 雨<sup>アメ</sup>や我<sup>ワ</sup>が目<sup>ミ</sup>涙<sup>ナタ</sup>ややびいら。

### 佐敷大按司詞

ああ、あさましい事<sup>コト</sup>。

やあ、思<sup>ウミン</sup>無<sup>ズ</sup>蔵<sup>ゾ</sup>ゆ、ゆう言<sup>イ</sup>ち呉<sup>クイ</sup>たん。

くぬ事<sup>コト</sup>や無<sup>ム</sup>蔵<sup>ゾ</sup>に 罪<sup>ツイ</sup>科<sup>ミト</sup>や無<sup>ネ</sup>らん。

按<sup>ア</sup>司<sup>ジ</sup>に弓<sup>ユミ</sup>引<sup>フイ</sup>ちゆる 佐<sup>サ</sup>弥<sup>ヤ</sup>波<sup>フ</sup>樽<sup>タル</sup>金<sup>ガニ</sup>や、

すいじり事<sup>コト</sup>たくむ 生<sup>イ</sup>ちさかし輩<sup>ヤカラ</sup>。

百ムム按アジ司ナカぬ中ナカぬ 按アジ司ナカぬ名ナにかきてい  
ふいら攻ジみに攻シみてい 討ウつち 取トウらさ！

乙樽詞

あきゆ 按アジ司ナカがなし！  
すいざをいきぬ 事コトや 許ユルち給タぼり！

佐敷大按司詞

いや、ならん！  
サヤフワフワ樽タル金ガニや 許ユルち置ウち濟スイまん！

（樽金、下手から登場。）

樽金詞

やあ、うみないゆ、しい破<sup>ヤ</sup>んていい！

佐敷大按司詞

トウム チヤー  
供ぬ達、でえんな事<sup>クトウ</sup>、出<sup>デイ</sup>ようり、出<sup>デイ</sup>ようり！

（太鼓鳴る。佐敷大按司の番をしていた二人の供の者達、上手より登場。樽金、乙樽を匿まう。供の者達、佐敷大按司より前に出て、大按司を匿う。樽金と佐敷大按司、互いに睨み合う。樽金と乙樽、急ぎ下手に退場。佐敷大按司と供の者達、急ぎ上手に退場。）

【第2部終わり】

【第3部】（知念城く佐弥波の大城内殿）  
ウフグスイクトウン

〔琉歌（地謡）・揚七尺節〕

波荒さ中に  
ナミアラ ナカ

黒雲や寄してい  
クルクム ユ

滝ならず雨ゆ  
タチ アミ

降らすとうみば（サユヨーンナー）  
フ

（僧・慶運、知念城に赴き、佐敷大按司の勅命を伝える。慶運、上手より出る。知念大主、知念松金、下手より出て控える。）

慶運詞

くりや僧、慶運。  
ソウ チーウン

佐敷大按司ぬ 御側がらみちゅん。  
サンチウフアジ ウスバ

チニンウフヌシ  
知念大主ゆ！

チユー  
今日や 按司アジからぬ 仰ウイし言ゲトウぬあむぬ、

ミミ  
耳ニぬ根ニゆあさてい だにゆ聞トウち留トウみり！

知念大主詞

フウガ  
拝フウガんちちゆみやびてい。

慶運詞

アクトウク ヤカラ  
悪徳アクトウクぬ輩ヤカラ 佐弥波サヤフワ樽金タルガニや

アジ イヌチ  
按司アジがなし命イヌチ 取トウらんでいしゆむぬ

ウ  
くり討ウたな置ウちちゆみ、なま討ウたななゆみ。

ウ  
うりから、

ウフアジ サヤフワウトウダル  
大按司ウフアジをうなじやら佐弥波サヤフワ乙樽ウトウダルや

タルガニ カケ  
樽金タルガニがぐすいく 隠カケさりて居フウりば、

疾トウく助タスイき出ウンじやし、直スイぐ救スクい出ウンじやし！  
知チニ念ウフ大ヌシ主シゆ、攻テみぬ大テイ将シヨウ、がらみきゆ！

知念大主詞

拜フウガんちちゆみやびてい。

（慶運退場）

松金詞

やあ、父チチウヤ親ウヤゆ。

佐サヤ弥フワ波チニ知チニ念ンとンうンや 昔ムカシからシきさシしから

島シマ々ジマぬマツイ祭マツイり 共トウムにムうムしムゃムぎムやムい。

やヤびビいイすスいイが、

佐サヤ弥フワ波ハラウジ腹ハラウジ氏ハラウジや 按アジ司ジ御ジュイ意ジュイにス背スムち

樽金タルガニと乙樽ウトウタルや  
あていなしぬ童ワラビ

親ウヤゆ失ウシなやい  
佐弥波村サヤフワムラはずいし

込クみらりてい  
居フウやびいたすいが、

我ワすい達腹氏タハラウジや捨スイていてい置ウかりらん、

同土ドウシびれぬあとてい  
取トウい合エーぬ有アりば、

樽金タルガニと我ワんや  
年頃トウシケルん近チカさ

互タテに嗜タシなだる  
槍刀ヤイカタナテイナ手並テナみ、

くぬ際チウになていん  
事クトウぬ極チウまでいん、

弓引ユミフイちやなやびいみ、

攻シみ討ウちやなやびいみ。

知念大主詞

やあ、我ワがなし子グウ、子クウぬ親ウヤゆ！

うぬ事クトウや我身ワミが  
知シらな置ウちゆみ。

此ぬゆちやになどてい 斯有る際などてい、  
肝苦りさあすいが 胸苦ついさ あすいが、  
佐弥波樽金が 佐敷大按司に、  
義理立ていんすいらん、弓引ちやる事や  
ああ、残念至極、  
戻さんでい言ちん戻ち戻さらん。  
按司ぬなか按司に 背ちどうんすりば  
佐佐弥波から済まん 我すい達腹氏までい  
御ぬらりぬあむぬ 御咎みぬあむぬ  
みすいく取い受きてい  
事に当たろうやあ！

〔琉歌（地謡）・仲村渠節〕

按司ぬなか（ヨー）按司ぬ（スリ）



戦押し（ヨー）寄してい

根葉ゆ刈ら（ヨー）ていやり（スリ）

すいらんしゅむぬ（ヨー サユヨーンナー）

（知念大主、知念松金退場。）

（佐弥波樽金、佐弥波乙樽入場。佐弥波の大城に場面移動している。）

### 樽金詞

やあ、うみないゆ！

佐敷大按司ぬ 戦押し寄してい

くぬ大城 根屋

七重八重 取い囲み囲でい

ぬぎる間や 無らん 隠る間や 無らん。

捨ている我が命や 惜しさ無んあすいが、

何ぬ罪ツイミん無ネらん 咎トウガみ事グトウ無ネらん

うみないが命ヌチや 捨スイている事クトウなゆみ。

やあ、うみないゆ！

聞チきば汝イヤが命ヌチや 助タスイきゆんていやり

按アジ司ウイぬ仰グトウし言ウイや 我ワぬん聞チち居フウむぬ。

くぬ城グスイク出ウシクじてい 仰ウイし言グトウぬままに

あぬ按アジ司ナカぬ中ナカに 救スクらりてい取トウらし。

### 乙樽詞

やあ、うみきいゆ！

我ワ身ミん罪ツイ科ミや 免ヌがる事クトウ無ネさみ。

按アジ司ウイがなし命イヌチ 奪ウンバい取トウらとうむてい

刀カタ振タい立タていてい 何ヌぬ罪ツイん無ネらに。

我ワんやうみきいに 御ウトウム供ムすいらな。

樽金詞

あたら<sup>イヤ</sup>汝<sup>スチ</sup>が命<sup>スチ</sup>に　むしかどうん有<sup>ア</sup>らば  
過<sup>スイ</sup>じし父<sup>チ</sup>母<sup>チ</sup>にい<sup>チ</sup>ち<sup>フ</sup>や<sup>フ</sup>が言<sup>イヤ</sup>りら。  
面<sup>ツイラ</sup>やふ<sup>ラ</sup>ら<sup>カ</sup>らん　面<sup>ミン</sup>目<sup>ブク</sup>や立<sup>タ</sup>たん。  
くぬ我<sup>ワ</sup>身<sup>ミ</sup>ぬ代<sup>カ</sup>わい　生<sup>イ</sup>ち<sup>チ</sup>取<sup>トゥ</sup>らし。

乙樽詞

あきよ我<sup>ワ</sup>ねち<sup>ヤ</sup>し<sup>ユ</sup>が  
神<sup>ヌル</sup>女<sup>メ</sup>に生<sup>ウン</sup>まりとてい  
命<sup>ヌチ</sup>救<sup>スク</sup>る靈<sup>スイ</sup>力<sup>ジ</sup>や　何<sup>マ</sup>処<sup>カ</sup>かいとう<sup>メ</sup>が。

「琉歌（地謡）・本伊平屋節（前半のみ）」

二<sup>フタ</sup>つ<sup>ツ</sup>いある（ヨ<sup>イ</sup>ーシ<sup>シ</sup>ユ<sup>ラ</sup>）命<sup>イヌチ</sup>  
選<sup>イ</sup>ば<sup>イ</sup>り<sup>ラ</sup>み（ヨ<sup>イ</sup>ーシ<sup>シ</sup>ユ<sup>ラ</sup>）一<sup>フイ</sup>つ<sup>トウ</sup>い

（樽金と乙樽、向き合う。）

乙樽詞

くぬ城ケスイク ウン 出じてい 按司方アジガタに降クダる  
衣チンぬ袖ステイトウ通しゆすい しばし待マち給タぼり。

〔琉歌（地謡）・伊野波節〕

くぬ世ユをうてい 互タケに（ウミキーヨー）  
守マムてい 守マムらりてい（ウミナイヨー）  
くりまでいゆ（ハイヤマタ）とう思ミば  
（ウミキーヨー） 歩アユみかにてい（ヨー）

（乙樽、一度退場し着替えて再登場。二人、最後の会釈を交わす。樽金退場。着替えた後の乙樽の道行。途中、知念大主の供の者と会い、

ともに知念大主のもとに赴く。知念大主、知念松金、供の者、戦仕度で登場。）

供の者3詞

さり、大主ぬ前、

大按司をうなじやら 美御美遣さびたん。

知念大主詞

佐弥波ぬ根神がなし、をうなじやらぬ前、

ゆう戻てい来ち 給ぼうちゃん。

さり、奥んかい。

（乙樽、上手より退場。）

知念大主詞

やあ、<sup>トウム</sup>供ぬ達！<sup>チャ</sup>

<sup>ジュイ</sup>御意<sup>スム</sup>背く<sup>ヤカラ</sup>輩<sup>ヌガ</sup>逃すまい。

<sup>ウスイ</sup>御靈力<sup>ウシ</sup>失なたる<sup>ウフゲ</sup>大城<sup>スイク</sup>なかい

<sup>ファイ</sup>火攻<sup>ジ</sup>みふいら攻<sup>イ</sup>みに<sup>ス</sup>急<sup>カ</sup>じ掛<sup>カ</sup>かり！

供の者3・4

<sup>ヲウガ</sup>拜<sup>ガ</sup>んちちゆみやびてい。

〔(地謡)・揚口説〕

<sup>ウフジ</sup>大地<sup>トウユ</sup>鳴響<sup>ウフア</sup>ます<sup>ジ</sup>大按<sup>ア</sup>司<sup>シ</sup>に

<sup>スム</sup>背<sup>スム</sup>く<sup>カク</sup>や<sup>ケ</sup>からは<sup>ケ</sup>覚<sup>ケ</sup>悟<sup>ケ</sup>す<sup>ケ</sup>い<sup>ケ</sup>り

<sup>シマ</sup>島<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>果<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>で<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>な<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>殺<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>

(一同抜刀。音曲激しく鳴る。知念大主以外は退場。知念大主、歩くうち、

樽金、抜刀して下手より登場。）

知念大主詞

やあやあ、佐弥波樽金！  
サヤフワタルガニ

うぬ刀手並み我んに見しり！  
カタチテイナ

樽金詞

焼ちゆ尽くさりる くぬ城内や  
ヤ ツイ

前に行じん地獄 退じかわん地獄、  
メ ウン ジグク

老人にくまや 法度法度 戻いみしより。  
ウイビトウ ハットウ ハットウ ムドウ

知念大主詞

慎みん無らん 前に出じてい居すいが  
ツイツイシ ネ

くぬゆちやになていん 衰いや無らん。  
ウツウル

手加減テイカジンや無用ムユウ ふいたに掛カかり！

樽金詞

あん言イらば、手加減テイカジンやさん、  
御覚悟ウカケゲゆみしより。

知念大主詞

望ヌスむ所トウケル。

（樽金と知念大主、刀を交える。しばらくすると、樽金が優勢となる。知念大主、下手に下がり、これを追った樽金により討たれる。下手から再び、樽金が現れるが、上手よりすでに松金と、その供の者達が現れている。）



樽金詞

やあ、チニンマツイガニ知念松金！

いった父親チチウヤや 今ナマどう討トウち取トウたる。

松金詞

やあ、サヤフワタルガニ佐弥波樽金、くりまでいゆとうむり！

父親チチウヤぬ 仇カタチ 今ナマどう討ウちゆる。

樽金詞

いった、むしや、始ハジみからうぬ心グクルやたみ。

松金詞

汝イヤとう 我ワんとう 誰タるや 強チュさが

今ナマどう 極チウみゆる。

（樽金と松金、刀を交える。しばらくすると、松金が優勢となる。樽金、下手に下がり、これを追った松金により討たれる。下手から再び、負傷した松金が現れる。供の者達、駆け寄る。）

松金詞

大事<sup>デジ</sup>やあらん。

擦<sup>スイ</sup>り傷<sup>キジ</sup>ゆでむぬ 何<sup>ヌ</sup>ん大事<sup>デジ</sup>やあらん。

佐<sup>サ</sup>弥<sup>ヤ</sup>波<sup>ワ</sup>樽<sup>タル</sup>金<sup>ガニ</sup>や 今<sup>ナマ</sup>どう 討<sup>ウ</sup>ち取<sup>トゥ</sup>たる。

〔琉歌（地謡）・東江節（アーキー）〕

あきよう、今<sup>ナマ</sup>がなたら

（兄・樽金の死が現実になるに及び、茫然自失の乙樽、現れる。兄の後を追うために、火中の大城根屋<sup>ウフグスイクニヤ</sup>を目指す。）

松金詞

をうなじやらぬ前、何処んかい！

やあ、供ぬ達、行かすな！

〔琉歌（地謡）・仲風（二揚調）〕

（アー）捨ててい（ヨー）置かりみ

うみきいゆ

我ぬん 一道なら（ヲイキヨー）

死出が（ヨー）

や（ヨーシユラヨー）ま路（ハイ）

（供の者達、乙樽に縋りつくが、着物はするりと剥れてしまい、乙樽はそのまま火中の下手に飛び込む。失意の松金と供の者達、上手に退場する。）

【第3部終わり】

【第4部】（知念大主の葬儀）

〔琉歌（地謡）・散山節〕

うす風カシとう 連りツイてい（ヤリ）

静シズイか波ナミ立ちタゆる

肝チムやすいみみしより

あぬ世ユまでいん（サユヨーンナー）

（知念大主の葬儀を司る僧・慶運を先頭に、佐敷大按司およびその供の者達、知念松金とその供の者達、服喪の姿で登場。上手に、佐敷大按司は「きやうちやこ」に座り、以下、僧・慶運、供の者達が控える。下手に、知念松金とその供の者達が控え、供の者の一人は、佐弥波乙

樽が火中に飛び込む際に、この世に脱ぎ捨てた衣装を持っている。）

松金詞

さり、アジ按司がなしい前、

チュウ今日や ワ我すい タ達父 チチ知念大主ぬ

ダビ茶毘ぬ ザイ座んかい ゆううちえんせびてい。

さり、アジ按司がなしい前、メイくりや・・・

ウイシヨウをうなじやらぬ カタミ形見

ウイシヨウ御衣装どうややびいる。

〔琉歌（地謡）・子持節〕

チンチフワダヌク衣着肌 マ残てい

ニウイウツ匂 フウ移ち居すいが（ヨ）

ユウシくぬ世 ウシ失なていぬ

後ゆ<sup>アトウ</sup>とうみば（ヨー）

（松金の供の者の一人、佐敷大按司に、乙樽の形見の衣装を差し出す。大按司、受け取り、しばらく見つけているが、その後、自らの供の者の一人に目配せして引き取らせる。）

佐敷大按司詞

やあ、知念<sup>チニンマツイガニ</sup>松金、

我ん<sup>ワ</sup>や言<sup>イ</sup>い欲<sup>フ</sup>しやる 事<sup>クトウ</sup>ぬまた有<sup>ア</sup>むぬ。  
くまに<sup>ユ</sup>寄しり。

松金詞

何<sup>ナニ</sup>がや<sup>ヤ</sup>びいら。

佐敷大按司詞

くたびぬがらみち ディツパシグク 立派至極。

やすいが、何んヌでい言イち

佐弥波乙樽サヤフワウトウダルゆ ヌガ 逃ヌガち死シなちやが。

うがやうぬ罰ハツイや ヌガ 逃ヌガりならん！

（横より、慶運が口を開く。）

慶運詞

さり、按アジ司シがなし。

知念大主チニウフヌシぬ ウダビ 御茶毘ウダビどう ややびいる。

たんでい ウタフム 御戯ウタフムりや ウフイ 御控ウフイけえみしえびり。

佐敷大按司詞

何が慶運チーウン！

うぬ様な愚痴グチ

我んにしゆみ！

慶運詞

按司アジぬ中ナカぬ按司前アジメ！

吾アが搔カい撫ナでい按司襲アジスイ！

恐ウトルしやん知シらん美御美ミユシにゆきやびすいが、

君チミぬ仰ウイし言ゲトウやみすいく取トウい受ウきてい

親ウヤク子トウム共ドウム共に御腰ミクシ立ダちがらみちやい

大將テシヨぬ父チチぬ討ウチ死ジニぬ後アトウん

悪徳アクトウクぬ輩ヤカラ父親チチウヤぬ仇カタチ

見事ミゲトウ討トウち取トウたる知念松金チニンマツイガニや

忠チュウぬ道ミチ尽ツイくす孝コウぬ道ミチ求ムむ



まくとう 武士ぬ身ぬ しろしさらみ。  
たとうい 按司やていん 色恋に任ち  
忠ぬ臣 孝ぬ臣 責みゆりば、  
臣下ぬ心 民草ぬ肝 只管に離り、  
島国ぬ人に 後指ざさり、  
悪按司ぬ沙汰や 世々に残やびん！

佐敷大按司詞

あんまでい 言み、慶運！

（佐敷大按司、動揺して立ち上がり、他の供の者達に向かっても銘々に問いただす。）

佐敷大按司詞

うがん言<sup>イユ</sup>み！ うがん言<sup>イユ</sup>み！

（佐敷大按司、周囲の無言に自らが非とされている空気を感じ、再び「きやうちやこ」に座る。）

佐敷大按司詞

分<sup>ワ</sup>かたん。

知<sup>チ</sup>念<sup>ニン</sup>松<sup>マツ</sup>金<sup>イ</sup>ゆ、知<sup>チ</sup>行<sup>ヨウ</sup>扶<sup>フ</sup>持<sup>チ</sup>や安<sup>ア</sup>堵<sup>ド</sup>す。

くりからや今<sup>イマ</sup>からや

知<sup>チ</sup>念<sup>ニン</sup>大<sup>ウ</sup>主<sup>フ</sup>ゆ名<sup>ナ</sup>乗<sup>メ</sup>り。

下<sup>サ</sup>がようり！

（知念松金とその供の者達、退場。）

佐敷大按司詞

ああ、供ぬ達トウム チャー フィチユイ、一人ない欲しやぬ、  
うが達んタチ しばし下サがようり。

（慶運はじめ、佐敷大按司の供の者達も退場。佐敷大按司のみ舞台上に残る。佐敷大按司のまぶたが閉じられる。）

（うたた寝する佐敷大按司の夢「幻影」。舞台上に二人の童が現れて踊る。実は童子であった頃の樽金と乙樽である。）

〔琉歌（地謡）・池武当節〕

（「二童敵討」より引用）

散チりてい根ニにかいる 花ハナん春ハル来クりば  
またん色イルまさる 事クトウぬ嬉ウリしや

佐敷大按司詞

やあ、童ぬ達！  
ワラビ チャー

しばし待ていゆ、何処かい行ちゆが？  
マ

童子の乙樽詞（子役）

をうないをいき 二人  
フタイ

遊びぶり しちよてい  
アスイ

両親ぬ元に 今どう戻やびる。  
フタウヤ ムトウ ナマ ムドゥ

佐敷大按司詞

ゐい、童ぬ達、能羽しち  
ワラビ チャー ヌフウニ

目さましより、目さましより！  
ミ

〔琉歌（地謡）・綾蝶節〕

（「二童敵討」より引用）

苔<sup>ツイフ</sup>でい 居<sup>フウ</sup>る 花<sup>ハナ</sup>に 近<sup>チカズイ</sup>付ちゆる はびる

いついぬ<sup>ユ</sup>世<sup>ユ</sup>ぬ 露<sup>ツイユ</sup>に 咲<sup>サ</sup>かち 吸<sup>ス</sup>ゆが

いついぬ<sup>ユ</sup>世<sup>ユ</sup>ぬ 露<sup>ツイユ</sup>に 一ついぬ<sup>ユ</sup>世<sup>ユ</sup>ぬ 露<sup>ツイユ</sup>に

咲<sup>サ</sup>かち 吸<sup>ス</sup>ゆが

佐敷大按司詞

ああ、清<sup>チュ</sup>らさ 清<sup>チュ</sup>らさ、 またん<sup>ヲウドウ</sup> 踊<sup>ユ</sup>ようり！

〔琉歌（地謡）・津堅節〕

佐<sup>サシ</sup>敷<sup>チウフ</sup>大<sup>ダイ</sup>（ヨー） 按<sup>アジ</sup>司<sup>シ</sup>や（ヨー）

だ<sup>ダン</sup>ん<sup>ジユ</sup>（ヨー） 鳴<sup>トウ</sup>響<sup>ユ</sup>（ヨー） ま<sup>マリ</sup>りる

器<sup>チ</sup>量<sup>ロ</sup>ん（ヨー） じん（ヨー） ぶ<sup>ブ</sup>ぬん

フイトウ  
人に（ヨー）替わてい（サユヨーンナー）

佐敷大按司詞

ああ、出来た、出来た。したい したい。

（童子二人、一旦、舞台裏に退場。）

（笛のフーヒーと太鼓が鳴る。）

（再度、舞台上に現れた二人は、成長して大人になっており、羽織で顔を隠している。羽織の覆いを取ると、二人は髪を振り乱す憤怒の鬼に変化していた。）

（男鬼「鬢しかみの面」と女鬼「般若の面」が荒れ狂い、男鬼は刀、女鬼は鉄丁を振り上げ、今生の恨みとばかりに、佐敷大按司に挑みかかって

殺さんとする。佐敷大按司、刀を抜くが、すぐに男鬼に打ち落とされる。）

（刀がまさに佐敷大按司に振り下ろされんとするとき、女鬼、佐敷大按司と男鬼の間に割って入り、男鬼を制す。女鬼、般若の面と鉄丁を捨て去り、増女ぞうおんなの面現れ、男鬼から佐敷大按司を守る。）

（一瞬の静寂。）

（再び、笛のフーヒーと太鼓が鳴る。）

（男鬼、なおも大按司を討たんとするも、増女ぞうおんな「女鬼」、身を挺して、渾身の思いで懇願して佐敷大按司をかばう。）

（騒ぎを聞きつけた、慶運たちが、鉦を打ち鳴らし駆け付ける。鉦の

音におどろき、この世の人々の現れる気配に、男鬼と増女ぞうおんな「女鬼」は  
急ぎあの世に去る。）

慶運詞

ああ、いちだんな事クトゥゆ いちだんな事クトゥゆ！  
法力ホリチゆ 使ツイカてい 清チユみ祓ハラろうゆ。

（慶運が鉦を打ち経文を唱え、座を清め祓うなか、憔悴した佐敷大按  
司は供の者達に抱えられ、知念大主の葬儀に参列した一同、退場する。）

【第4部終わり】

（完）



（注）この組踊台本は、「古事記」「日本書記」における「サホビコ・サホビメ」の説話をもとに、それを沖繩島南部の佐敷・知念を舞台に移し変えて作られている。佐敷大按司は、「サホビコ・サホビメ」の説話では垂仁天皇（イクメイリビコ）にあたるが、本作では尚巴志にも重ね合わされて設定されている。ただし、歴史的な事実とされていることから随分と離れている点もあり、それは他の組踊と同様、虚構としてお許しいただきたい（例えば、尚巴志の父、尚思紹は、歴史的には尚巴志が五十歳頃まで存命している）。

発音と表記について、[wi]は「をい」、[wu]は「をう」とした。[wi]は、語頭では「ゐ」としたが、語中では読みやすさを考慮し「い」とした。「うい」「いや」「いゆ」「うん」等は喉を詰める発音で、伊波普猷一九九二「一九二九」のローマ字表記では、語頭にアポストロフィ「'」が添えられて書かれるものである。

○主要参考文献

伊波普猷 一九九二「一九二九」『校註琉球戯曲集』榕樹社

伊波普猷 二〇〇〇「一九四二」『古琉球』岩波文庫

宇治谷孟 一九八八『全現代語訳 日本書紀』（上）講談社学術文庫

倉野憲司・武田祐吉 一九五八『古事記・祝詞』日本古典文学大系1

岩波書店

国立国語研究所 一九六三『沖縄語辞典』大蔵省出版局

権藤芳一 一九七九『能楽手帖』駸々堂

坂本太郎・井上光貞・家永三郎・大野晋 一九九四『日本書紀』（二）

岩波文庫

島袋盛敏・翁長俊郎 一九六八『標音評釈 琉歌全集』武蔵野書院

島村幸一 二〇一五『琉球文学の歴史叙述』勉誠出版

武田祐吉・中村啓信 一九七七『新訂 古事記 付現代語訳』角川文

庫

西原町史編纂委員会 一九八九『西原町史第4巻資料編3 西原の民俗』西原町役場

波照間永吉 二〇〇六『鎌倉芳太郎資料編（ノート篇）第二巻 民俗・宗教』沖繩県立芸術大学附属研究所

波照間永吉 二〇一三・二〇一四「世ば稔れ」考（上）（下）『沖繩文化』一一四・一一五

外間守善 二〇〇〇『おもろさうし』（上・下）岩波文庫

宮城栄昌 一九七九『沖繩のノロの研究』吉川弘文館

柳田國男 一九九〇「二九四〇」「妹の力」『柳田國男全集十一』ちくま文庫